

令和元年度 ハバノリ養殖試験報告書

2020年5月
尾鷲市水産農林課

【保存株からの種糸作成】

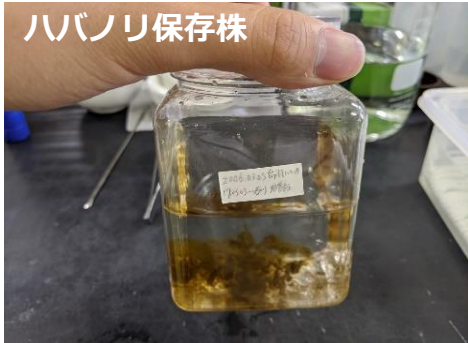
11/18 三重大学藻類学研究室の協力を得て作成

種糸 : クレモナロープ (直径4mm)、ポリロープ (直径3mm)

保存株 : 行野浦産 (2017年3月採集)、鳥羽産 (2006年3月採集)

保存株ごとにクレモナ8m×2本、ポリ8m×1本を作成

ハバノリ保存株



種糸作成



ハバノリ種糸



【種糸培養】

11/18-12/9

種糸をアクリル板に巻き付け、培養容器内に収容

藻類学研究室の培養棚で下記条件で培養

栄養強化海水 (PESI培地)

光量子約35 μmol 、室温約20°C

培養風景



【養殖試験】

12/9 三重大より種糸を市役所へ輸送

19°Cに調温したクーラーボックス内で培養

12/11 大曽根にて養殖試験開始

塩ビパイプとロープで作成した梯子型養殖枠2つに種糸を設置

養殖枠の1つを洗浄区、1つを未洗浄区とした

12/12 ロープを引っ張り養殖枠を空中に浮かせ、ロープを緩めて養殖枠を海面に落下させて種糸を洗浄

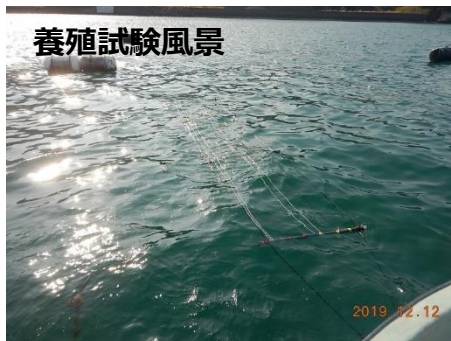
12/13 同上のとおり洗浄

2/4 未洗浄区のロープの片側が外れて、絡まっているのを確認
絡まりを取り、再設置した

梯子型養殖枠



養殖試験風景



種糸洗浄



【試験結果】

2/17 養殖枠を回収→ハバノリ収量（湿重量）を測定

洗浄区 平均収量

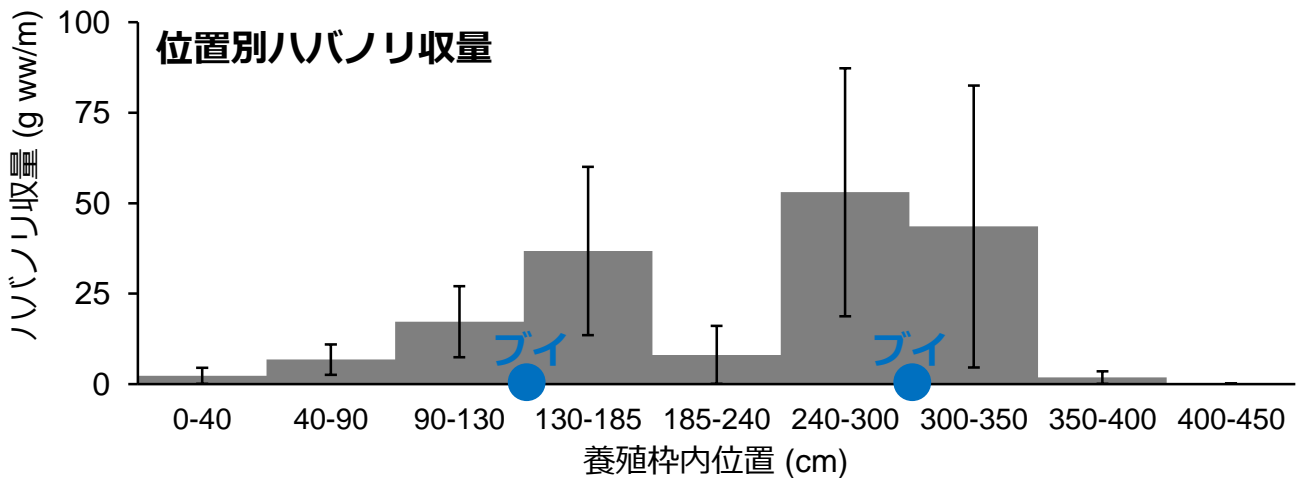
ポリ 行野産1.2 g ww/m、鳥羽産3.5 g ww/m

クレモナ 行野産104.3 g ww/m、鳥羽産41.8 g ww/m

未洗浄区 平均収量

クレモナ 行野産1.7 g ww/m、鳥羽産12.8 g ww/m

- ・未洗浄区では収量が少なかった
→付着物・汚れは洗浄区と大差が無かった
→絡まったことでハバノリが損傷・流出したと推定
- ・ポリロープでは収量が少なかった
→ポリロープは種糸として不適
- ・行野産は鳥羽産と同等以上の収量
→2017年に採集した行野産保存株の確立
- ・位置別収量はブイの近隣で多かった
→天然ハバノリもブイ等によく生育
→ブイ近隣は揺れ等がハバノリに好適な条件と考えられる
→ブイを増やすなど養殖枠の改良によって収量増加が期待



【板ノリ試作】

2/17 測定後のハバノリから板ノリを試作

全体収量 行野産584 g、鳥羽産304 g

板ノリ1枚あたり50-60 g

行野産から板ノリ10枚、鳥羽産から板ノリ5枚を作成

